

支 出 書

会 派 名	誠友会	整理No. 2 - /
科 目 (該当○印)	1 調査研究費    ② 研 修 費    3 資料作成費 4 資料購入費    5 広 報 費    6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費    8 会 議 費    9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	50,340円	
支出年月日	令和元年10月1日	
支出内容	令和元年10月3日 東京都千代田区出張旅費	
支 出 先	別紙領収書とおおり	

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 稲葉誠一郎 印

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

## 領 収 書

(会派名) 誠友会

2019年10月3日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

¥50,340

但、10月3日東京千代田区へ  
の出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	47,240円	東京
日 当	3,100円	1日
宿 泊 料		
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 徳山威雄



研究研修・調査報告書

会 派 名	誠 友 会	報 告 日	令和元年11月5日
代 表 者	稲葉 誠一郎 (稲葉)	報 告 者	徳山 威雄 (徳山)
参 加	徳山 威雄		
実 施 日	令和元年10月3日		
研究研修・調査等の場所	東京都千代田区 自民党本部 東京都港区高輪 MOA 東京療院		
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各省庁における統合医療令和元年度予算について</li> <li>・スペイン統合医療学会との協定について</li> </ul>		
<p>研究研修・調査等の概要</p> <p>11:00~12:00</p> <p>広島県 MOA 議員の会の研修で、令和元年度統合医療推進議員連盟の総会に出席し、統合医療の進捗状況と、国の令和2年度の概算要求に対する要望へ各府省庁よりの説明を聞いた。</p> <p>会長の鴨下一郎議員より開会の挨拶の後、統合医療に関係のある13の省庁で関係する43課からそれぞれ説明があった。内閣府、厚生労働省、文部科学省、農林水産省、総務省、経済産業省、国土交通省、環境省、消費者庁、スポーツ庁など、多くの関係省庁が統合医療にかかわっているということに驚いたが、統合医療推進議員連盟に270名を超える国会議員が参加しており、その勢力の多さにも驚いた。その中でも直接関係がある厚生労働省が、統合医療の「医療モデル」と「社会モデル」の研究の質と量を確保するための予算として、ここ6年ほど毎年約1億円を予算化している。また、「統合医療」情報発信サイト等で、最新情報を発信する予算として、これも5年毎年1億円予算化している。人生の最終段階における医療体制整備等の事業にここ6年3億円から10億円が予算化している。</p> <p>ここまでの予算化のない省庁もかなりの統合医療についての取り組みを行っているようであり、早く法律として制定するように期待をしている。これは日本国の医療費が年額</p>			

43兆円と増高してきており、これを低減させないと医療崩壊につながるとの危機感の表れではないかと思っている。そこで東洋医療などの療法も取り入れた統合医療を推進しなければならないと国の関係者も自覚しているからではないかと思っている。

福山市においてはまだまだ統合医療の取り組みはないが、国の情報を早く察知して医療費抑制に取り組まなければならない。

スペイン 統合医療学会との協定については、説明はなかったが、いただいた資料の中にスペイン統合医療学会との統合医療に対する協定調印式を行ってとあり、ヨーロッパでもイギリス、アルゼンチン、チェコ、メキシコ、ポルトガル、オーストラリア、イタリア、ドイツ、スウェーデンなどが積極的に取り組んでいることが報告されており、日本の動きは世界中から注目されている。早い時期に世界が同レベルで統合医療が行える時代が来ることを望んでいる。福山市議会でもそうした取り組みを機会があるごとに発言して、認識を広めていきたい。

支 出 書

会 派 名	誠友会	整理No.	2-2
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 ② 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	185,360円		
支出年月日	令和元年10月28日		
支出内容	令和元年10月30日～10月31日 高知県高知市出張旅費・参加費 第14回全国市議会議長会研究フォーラム IN 高知参加		
支 出 先	別紙領収書とおおり		

領 収 書	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
(該当○印)	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 稲葉誠一郎 印

支出NO 2-2

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和2年4月15日

徳山 威雄 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム

委員長 野 原

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として (10月21日入金)

令和元年10月30日・31日開催 (高知市)

$7000_{円} \times 4\%$   
 $= 2800_{円}$

支出 NO 2-2

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和2年4月15日

稲葉 誠一郎 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム

委員長 野

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として (10月21日入金)

令和元年10月30日・31日開催 (高知市)

支出NO 2-2


第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和2年4月15日

能宗 正洋 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム

委員長 野 

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として (10月21日入金)

令和元年10月30日・31日開催 (高知市)



支出 NO 2-2

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

令和2年4月15日

平松 正人 様

参加費領収書

第14回全国市議会議長会研究フォーラム

委員長 野 原

東京都千代田区平河町2-4-2

金 7,000 円

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

参加代金として (10月21日入金)

令和元年10月30日・31日開催 (高知市)

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会  
(代表者) 稲葉誠一郎 様

2019年10月15日

**¥39,340**

但、10月30日～31日高知市  
への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	18,340円	高知市
日 当	6,200円	2日
宿 泊 料	14,800円	1泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 稲葉誠一郎



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会  
(代表者) 稲葉誠一郎 様

2019年10月15日

**¥39,340**

但、10月30日～31日高知市  
への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	18,340円	高知市
日 当	6,200円	2日
宿 泊 料	14,800円	1泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 徳山威雄



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

## 領 収 書

(会派名) 誠友会

2019年10月15日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

¥39,340

但、10月30日～31日高知市  
への出張旅費

[内 訳]

上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	18,340円	高知市
日 当	6,200円	2日
宿 泊 料	14,800円	1泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 能宗正洋



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

## 領 収 書

(会派名) 誠友会

2019年10月15日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

¥39,340

但、10月30日～31日高知市  
への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました



	金 額	摘 要
交 通 費	18,340円	高知市
日 当	6,200円	2日
宿 泊 料	14,800円	1泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 平松正人



研究研修・調査報告書

会 派 名	誠 友 会	報 告 日	令和元年 11 月 11 日
代 表 者	稲葉誠一郎 	報 告 者	能宗正洋 
参 加 者	稲葉誠一郎・徳山威雄・能宗正洋・平松正人		
実 施 日	2019 年 10 月 30 日(水) ~ 2019 年 10 月 31 日(木)		
研究研修・調査等の場所	高知市 「高知ぢばさんセンター」		
目 的	第 14 回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知に参加		

◇スケジュール

- 第 1 日目 10 月 30 日(水)
- 12:00 開場・受付
  - 13:00 開会式
  - 13:20 基調講演
  - 14:40 パネルディスカッション
  - 17:00 終了
- 第 2 日目 10 月 31 日(木)
- 8:30 開場
  - 9:00 課題討議
  - 11:00 閉会式

◇内容 第 1 日目 10 月 30 日(水)

- 開会式 13:00~13:20
  - ・主催者挨拶 野尻哲雄 全国市議会議長会長・大分市議会議長
  - ・主催市歓迎の挨拶 田鍋 剛 高知市議会議長
  - ・来賓代表挨拶 岡崎高知市長

この大会は、平成 18 年から開催し今年で 14 回目を迎える。

地方分権改革の進展に伴い、市議会の役割と責任が高まるなか、市議会は、継続的な自己改革に取り組み、議会の魅力を高め住民の信頼を確保する必要がある。また、社会経済の急速な構造変化を背景に、市議会には、多様化する民意の市政への反映と集約が期待されている。そのため、議会への多様な人材の参画や、議会改革の深化を図る必要がある。そういった意味で、このフォーラムは、議会の役割のさらなる充実を目指し、共通する課題や今後の議会の有り方について意見交換を行うと共に、議員同士の一層の連携を深めることを目的としている。

今回は、高知が生んだ国民的英雄である坂本龍馬の船中八策にならない「議会活性化のための船中八策」をテーマとして、現場の課題とその対応策、併せてこれからの議会像・議員像について広く討議して欲しい。

○ 基調講演 13:20~14:20

「現代政治のマトリクス-リベラル保守という可能性」  
中野 岳志 東京工業大学リベラルアーツ研究共育院教授

1.政治のマトリクス

自分と異なる意見の持ち主に耳を傾け、交えて変化していく政治からリベラル・保守の自由を尊ぶ保守本流の政治になっている  
それが自民党の50年と言える

2.ラディカルデモクラシーとポピュリズム

※物語設定の重要性

①2017年10月の立民主党フィーバー から

②2019年のれいわ新選組フィーバー

⇒新たな物語が欠如すると埋没する

※ラディカルデモクラシー

熱しやすく冷めやすい

① 熟議デモクラシー・・・タウンミーティング・民衆の声

② 討議デモクラシー・・・小選挙区制度辺りから二大政党化した

⇒政治を市民にするべきである(市民が阻害⇒投票率低下)

3.リベラルの逆説

・寛容としてのリベラル

異なる他者と如何に共生するのか⇒個人の価値の領域には土足で踏み込まない

・消極的自由と積極的自由⇒自由のパラドクス

4.保守とは何か

・伝統主義と保守主義

普遍的な人間の本性としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守主義とを区別すべきだ

・懐疑主義的人間観

真に理知的な人間は、理知の限界を理知的に把握する⇒人間社会の完成不可能性(不完全)

・斬新主義から保守するための改革

私達の現在は、膨大な過去の蓄積・識別する知恵・知的財産の上に成立している

改革とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整(保守的な精神)である

### 感想

内容が大学院生向けの講義の如く、ハイレベルで理解しにくい点が多かった。しかし、リスクの個人化(自己責任・小さな政府)よりもリスクの社会化(セーフティネットの強化・大きな政府)を。さらには、パターナル(不権的)よりもリベラル(寛容)を目指して欲しい旨の内容であった。

### ○ パネルディスカッション 14:40~17:00

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター	坪井ゆづる	朝日新聞開設委員
パネリスト	高部 正男	市町村職員中央研修所学長
	横田 響子	㈱コラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授
	古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合理事長
	田鍋 剛	高知市議会議長

・ パネルディスカッションに当たり議論したい点・提言などについて各パネリストからの提案は、

- 高部
  - ・ 統一地方選挙等低投票率の問題
  - ・ 無投票当選等のなり手不足
  - ・ 議員層の偏り(若者のなり手不足)
  - ・ 住民目線からして何をしているのか解らない
    - ・ ・ ・ 質問も学芸会的になっている
  - ・ 議会改革・ ・ 議会より基本条例の提出がない
- 横田
  - ・ どの議員が何をやっているか解らない
  - ・ 中長期的な視点での質問をするには
  - ・ データ(指標)をもって政策になっているか
- 古川
  - ・ 市の中心部の活性化につながっているか
  - ・ 議員のエリアが中山間地域の出身者が多い
  - ・ 国策が市の策そのものになっていないか
  - ・ 中長期的な未来を見据えた提言になっているか
- 田鍋
  - ・ 投票率率低下問題
  - ・ ごみ袋有料化条例が否決されたことについて

などが出された。

これらの内容を受けて、坪井コーディネーターよりこれらに関しパネリストの意見を集約され、個々に確認された

- 自治の主役の自覚に欠ける議員が存在しているという議会不信が根強くあり低投票率につながっているのでは
- 行政監視機能をどうやって高め、成果を上げてゆくか
- 人口減少、外国人の増加、災害対策等の地域の未来を見据えた政策論議をすすめるための必要な視点とは
- 候補者男女均等法のもとで「老老男男」の実態をどう変えられるのか
- なり手不足問題(含、女性ゼロ議員)にどのように対処すべきか



○住民の関心を高めるためには、何をすべきか

○3 ない議会・・・①議案への議員の賛否を公表しない ②首長の提出した議案を終生、否決しない ③議員提案の政策条例を制定していない にどう対応すべきか

更に、会場からの質問に対して返答する形式も取り入れられた。

Q1: 議会報告会の参加者が固定してきている

A1: 市内の各団体とワークショップ形式で開催してはどうか

各議員の広報誌で報告しては

聞きたい方は来いではなく、議員側から市民に近づいて耳を傾けて話しては

⇒そうすることで、議会に関心を持ってもらえ、投票率向上にもつながる

得票を沢山取る人は、色んな活動もされ、多くの人の意見も聴いて、実現もされておられる

Q2: 住民の関心を高めるには

A2: 地域、組織から尊敬される人になるような活動、報告をすること

Q3: 議会改革をするには

A3: 何が問題で、何をどうするかを明確にすべきだ

目標・目的を持って

Q4: 女性議員を増やすには

A4: 民間企業の次の管理者候補を探り根回しする

「複数投票制」の導入を模索する

#### ◇まとめ

「議会活性化のための船中八策」を、各パネリストの方も発表され、それらのまとめとして、コーディネーターが、より良い議会にするために、①行政監視機能について ②次世代を見据えた議論、視点 ③データを踏まえた議論 ④多様性の確保 ⑤議員報酬 ⑥労働法制 ⑦情報公開 ⑧合意形成 の8つを八朔として、明日さらに討議を深めたいと閉められました。

#### ◇内容

第2日目 10月31日(木)

○ 課題討議 9:00～11:00

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター

パネリスト

坪井ゆずる

高部正男

横田響子

古川康造

田鍋 剛

朝日新聞論説委員

市町村職員中央研修所学長

(株)コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授

高松丸亀町商店街振興組合理事長

高知市議会議長

○滝沢上越市議会議員からは、「市議を目指しやすい環境整備の提言」として、環境整備検討会を設置し、「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し、その改革を策定することの報告があり、その中で注目すべき点は、市民の意識には、「市議を目指さない」「もとより興味がない」「やりがいを感じられない」という市民の声があり、検討会では「議会の魅力を見せられる議会の見える化」が第一と捉えた。

その後、市民との意見交換会や議員アンケートなど繰り返し、5つの大項目と19の小項目で構成する提言を答申した。まとめとして、見える議会・魅せる議会は、「住民協働力」「行政との対峙力」「立法力」「情報収集発信力」の揃った議会こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力であると結論づけられた。

○久坂鎌倉市議会議長からは、「女性議員の現状の視点」として女性議員の顕在化した課題が報告された。例えば出産に係る会議規則が規定されてなく、出産に伴う議会の欠席に関する規定について、「得期間及び運用の明記」「子の看護休暇に関する規定の整備」「配偶者出産休暇の取得」など議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備・改善について、「産議員ネットワーク、子育て議員連盟」の立場として提言がありました。

○小林周南市市議会議長からは、広域合併による議員報酬問題を発端に、議会解散を問う住民投票が行われ、即日解散となった。周南市市議会では議会解散の経験を生かし、「議会改革」の積極的に取り組んでいる。「市民により開かれた市議会」「公開」「対話」などをキーワードとして、議会改革特別委員会が設置され、平成16年7月から平成17年6月までの1年間で合計15回の委員会が開催され「開かれた議会をめざして」「議員の質向上をめざして」について協議検討された。

議会改革の歩みとして、30の項目を策定・改正などが示された。

併せて、行政監視機能の充実についても積極的に調査が行われている。また、職員提案による「市議会行政視察受入れ拡充事業」として全国から積極的に受け入れている。

#### ◇まとめ

今回のテーマである「議会活性化のための船中八策」における課題討議を拝聴するなか、八策とは①多様性を考え、女性や若手議員候補の環境を整える②10年、20年先を想像して議会の未来カルテを作成する③過去のデータを収集し、データに基づいた議論を行う④議員報酬に伴う労働補正・構成を行う⑤行政監視機能を高める⑥意見交換会等により市民の意見をどのようにして集めるか⑦情報公開による議員の賛否の公開⑧会派を超えた議員間の討論・討議を行う。以上が八策と受け止めました。

八策を福山市議会に反映させていくためには、会派を超えた事前の討論が必要ではと考えます。政党からの女性議員が本市では3名で無所属の女性議員がいない現状では、偏りのない意見の発信力がやや不足していると感じる点もあり、無所属の女性議員の議会進出を願うものです。また、議員個人の賛否についても公表することも一考かと思えます。そのためにも議員間討論ができる環境を整備する必要があると考えます。また、市民にとっての開かれた議会はどのようなものか考えさせられるフォーラムでした。

以上

支 出 書

会 派 名	誠友会	整理No.	2 - 3
科 目 (該当○印)	1 調査研究費    ② 研 修 費    3 資料作成費 4 資料購入費    5 広 報 費    6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費    8 会 議 費    9 人 件 費 10 事 務 所 費		
金 額	391,320円		
支出年月日	令和元年11月4日		
支出内容	令和元年11月6日～11月8日 鹿児島県霧島市出張旅費・参加費 第81回全国都市問題会議 IN 霧島参加		
支 出 先	別紙領収書とおり		

領 収 書 (該当○印)	<input checked="" type="checkbox"/> (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 稲葉誠一郎 印

※ 別紙

※ 領収書添付用紙

支出書整理№

2-3

(領収書添付欄) ※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

※枠内に収まらない場合は領収書を縮小して添付するか、又は、A4版の領収書等については、そのま

会議参加費領収書 **再発行**

平松 正人 様

金 10,000 円

但、「第81回全国都市問題会議」に係る会議参加費として  
上記正に領収いたしました。

令和元年 11 月 7 日

第81回全国都市問題会議実行委員

会 長 中 重 真 一

10,000円 x 4名  
= 40,000円

※ 別紙

※ 領収書添付用紙

支出書整理No

2-3

(領収書添付欄) ※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

※枠内に収まらないう場合は領収書を縮小して添付するか、又は、A4版の領収書等については、そのま

会議参加費領収書

再発行

稲葉 誠一郎 様

金 10,000 円

但、「第81回全国都市問題会議」に係る会議参加費として  
上記正に領収いたしました。

令和元年 〃 月 7 日

第81回全国都市問題会議実行委

会長 中重 真一

※別紙

※領収書添付用紙

支出書整理No.

2-3

(領収書添付欄) ※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

※枠内に収まらないう場合は領収書を縮小して添付するか、又は、A4版の領収書等については、そのままの

会議参加費領収書

再発行

徳山 威雄 様

金 10,000 円

但、「第81回全国都市問題会議」に係る会議参加費として  
上記正に領収いたしました。

令和元年 11 月 7 日

第81回全国都市問題会議実行委

会長 中重 真一

※ 別紙

※ 領収書添付用紙

支出書整理No.

2-3

(領収書添付欄)

※ 領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

※ 枠内に収まらないうち、領収書を縮小して添付するか、又は、A4版の領収書等については、そのまますべて添付してください。

会議参加費領収書 **再発行**

能宗 正洋 様

金 10,000 円

但、「第81回全国都市問題会議」に係る会議参加費として  
上記正に領収いたしました。

令和元年 11 月 7 日

第81回全国都市問題会議実行委

会 長 中 重 真 一

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会

2019年10月15日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

**¥87,830**

但、11月6日～8日霧島市へ  
の出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	53,580円	霧島市
日 当	4,650円	1.5日
宿 泊 料	29,600円	2泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 稲葉誠一郎





(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会  
(代表者) 稲葉誠一郎 様

2019年11月7日

**¥87,830**

但、11月6日～8日霧島市へ  
の出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	53,580円	霧島市
日 当	4,650円	1.5日
宿 泊 料	29,600円	2泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 徳山威雄



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会

2019年10月15日

(代表者) 稲葉誠一郎 様

**¥87,830**

但、11月6日～8日霧島市へ  
の出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	53,580円	霧島市
日 当	4,650円	1.5日
宿 泊 料	29,600円	2泊
( )	円	

(会派名) 誠友会

(名 前) 能宗正洋



(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

# 領 収 書

(会派名) 誠友会  
(代表者) 稲葉誠一郎 様

2019年11月6日

**¥87,830**

但、11月6日～8日霧島市へ  
の出張旅費



[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交 通 費	53,580円	霧島市
日 当	4,650円	1.5日
宿 泊 料	29,600円	2泊
( )	円	

(会派名) 誠友会  
(名 前) 平松正人



研究研修・調査報告書

会 派 名	誠 友 会	報 告 日	令和元年 11 月 18 日
代 表 者	稲葉誠一郎 	報 告 者	平松正人 
参 加 者	稲葉誠一郎・徳山威雄・能宗正洋・平松正人		
実 施 日	2019(令和元)年 11 月 6 日(水)～2019(令和元)年 11 月 8 日(金)		
研究研修・調査等の場所	霧島市 「霧島市国分体育館」		
目 的	第 81 回全国都市問題会議 in 霧島に参加		
<p>◇スケジュール</p> <p>第 1 日目 11 月 7 日(木) 9:30～17:00</p> <p>9:30 開会式          開会挨拶 立谷秀清 全国市議会会長・相馬市長          開会市市長挨拶 中重真一 鹿児島県霧島市長          来賓挨拶 三反園 訓 鹿児島県知事</p> <p>9:50 基調講演          鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵          坂口 泉 志學館大学人間関係学部教授</p> <p>11:00 主報告          霧島市の防災の取組 ～火山防災～          中重真一 鹿児島県霧島市長</p> <p>13:10 一般報告          災害とコミュニティ:地域から地域防災への答えを出すために          田中重好 尚綱学院大学人文社会学郡長</p>			

14:40 一般報告

平成 30 年 7 月豪雨災害における広島市の対応と取り組みについて

松井一實 広島県広島市長

15:50 一般報告

火山災害と防災

中田節也 防災科学技術研究所火山研究推進センター長

第 2 日目 11 月 8 日(金) 9:30~12:00

9:30 パネルディスカッション

「テーマ」防災とコミュニティ

・コーディネーター

田中正人 追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授

・パネリスト

大矢根 淳 専修大学人間科学部教授

磯打 千雅子 香川大学地域強靱化研究センター特命准教授

持留憲治 霧島市国分野口地区自治公民館長

豊岡武士 静岡県三島市長

神出政巳 和歌山県海南市長

11:50 閉会式

次期開催地市長挨拶 小林 眞 青森県八戸市長

閉会挨拶 小早川光郎 後藤・安田記念東京都市研究所理事長

◇内容 第 2 日目

○ パネルディスカッション 9:30~11:50

※最初にコーディネーター・各パネリストより「防災とコミュニティ」に関する考えや活動実態を報告された

1. 田中正人氏 (コーディネーター)

「防災とコミュニティ」

今年は、都市計画法が施行されてから 100 年を迎える。これまで長年の犠牲者数の経過は、~1959 年迄は、年間平均 3,600 人—1960 年~1994 年の間は、年間 100 人—1995 年~阪神淡路大震災等により年間 1,130 人となっている。最近では、自然災害・暴露性・脆弱性が相俟って災害リスクが大である。

一方、コミュニティに関しても、希薄化・分節化・断片化が進んでいる。災害リスクも複雑化・不可視化・個人化となり、自然災害も多様化・激甚化・広域化している。

そういった意味からも、地域と行政は、如何に連携・統合・再構築を

図るかが課題である。また、地域内・地域間あるいは、行政内・行政間の連携も重要である。

このような提言を示された。

## 2. 豊岡武士氏 (パネリスト:三島市長)

「安心安全なまち三島を目指して」

静岡県三島市の地震被害想定を先ず示された。南海トラフ地震での被害は、推定震度 6 弱が約 89%+5 強約 11%で、建物被害は、全焼・全壊含めて約 400 棟。相模トラフ地震では、6 強約 69%、6 弱約 23%、5 強約 8%で、建物被害は、同じく約 2,700 棟、合わせて人的被害(死者数)を 20 人と想定。

それに伴って、地域コミュニティ組織の現状・避難所運営に関する取組を話された。

144 の自治会全てに町内会組織があり、すべてに自主防災組織が結成されている。14 の小学校区に地域コミュニティ協議会・連絡会が組織されている。そして、防災対策・高齢化・防犯・交通安全等地域がかかえる課題を地域で考え、地域住民が主体となって取組実践する中で、「ご近所力」を高めると共に、先進的な事例や実践された新たな取り組みを全市的に普及啓発されている。

避難所運営は、市内 14 の小学校・7 の中学校・2 の高等学校を指定避難所に指定し、避難所運営の中核となるメンバーで基本マニュアルの情報共有を図っている。

特徴的なこととして、避難所 23 ヶ所に簡易無線を配備し、避難訓練は、全 35 会場で 2 日間の避難訓練を実施するとともに、オフロードバイク隊による LINE 動画配信やドローンの活用も実施している。

防災の担い手の確保・育成として、ジュニアレスキュー隊の結成がある。また、夜間の避難訓練とか授乳場所など女性や要介護者に配慮した場所の確保やマニュアルの整備も進められている。

## 3. 神出政巳氏 (パネリスト:南海市長)

「防災活動を通じた地域との連携」

災害への備えとして、30 年以内に 70~80%の確率で発生すると想定されている南海トラフ地震では、震度 7・8m の津波・4,000 人の死者数・5,000 億円の被害が見込まれることから、減災対策として、既に総事業費 450 億円で総延長 6.9km に及ぶ防波堤等の津波対策工事を講じている。

ソフト面でも、過去の教訓や東日本大震災を機に、「自分の命は自分で守る」という考えが浸透している。具体的な活動としては、沿岸部を中心に自治会(全世帯の 76%が加入)の約 90%の 221 地区が結成され、自主防災会等を中心に地域と連携した様々な防災活動を実施。

また、平成 22 年から、年間 2 地区から 3 地区を重点地区に指定して訓練を実施している。特徴としては、車椅子による避難訓練などを通じて要支援者への支援方法や避難した後の行動等にも配慮している。

行政と地域とが連携して実施する防災活動は、地域の自助・共助の意識を高めるだけでなく、信頼・協力の必要性が大切であると強調された。

## 4. 大矢根 淳氏 (パネリスト:専修大学教授)

「コミュニティ・レジリエンス醸成のカギをさぐって」

阪神淡路大震災時において、自助・共助の役割が大きく評価された。合わせて公助の限界が吐露された。その点から、結果防災(活動・組織)の掘り起こしに関して示された。内容的には、防災の主体は、担い手の育成・確保・拡大、地域と行政との連携、コミュニティ防災力の向上、災害時のコミュニティ継続のあり方などであった。

具体的な内容としては、年中行事の花見・堤防などを踏み固めるにつながる生活防災機能を担保する土手普請。4世代での防災まち歩きによる防災マップづくりや学校の体育倉庫の配備状況を参考にした防災倉庫内配備の仕方。「HUG:避難所運営ゲーム」の活用。地区内残留地区・高層マンション化・不燃化エリアの中高校生を巻き込んでの声掛け活動などが説明された。

#### 5. 磯打千雅子氏 (パネリスト:香川大学特命准教授)

##### 「目標と限界を共有する戦略的な連携計画」

南海トラフ巨大地震における広域的で甚大な災害が想定される中、被害を受けることを大前提としたBCP(事業継続計画)とDCP(地域継続計画)についての説明からはいられました。特に、地域の組織が事前に合意形成を図って被害軽減方針を決定し、発災直後から各組織が戦略的に行動できるようにしておく必要性を示された。そして、BCP・DCPの地域に対する地域継続力向上効果と地区防災計画制度の関係性を強調された。地区防災計画制度は、DCPの目的達成をより強固なものにする可能性を有していて、今後の目に見える成果の一つとして個別対策の実現に向けた地区防災計画の策定が大いに期待されると。

取組事例として、土器川における流域DCPとその波及効果を示された。内容は、3市3町の住民、事業者、行政による大規模大災害に適応した対策検討会の設置や目標を明確にした住民目線でのタイムライン策定や自治体向け行動計画書の策定。これらを継続することで、地域が主体的に地区防災計画を策定、中には、子供たちが作成した防災マップ、住民主体の協議会、町内会単位での洪水避難グループワークなどへの波及効果があったとの事。

最後に、自助・共助・公助の三分論の有り方や、昨今の被害は、突発的で甚大となる傾向なため、地方自治体そのものが機能不全になる可能性があり、地域継続の担い手を中心とした伴走機能の継続の必要性、DCPを通じて走者目線で機能継続対策の必要性があるとも言われた。

#### 6. 持留憲治 (パネリスト:自治公民館長)

##### 「地域コミュニティの強化を目指して」

野口地区は、市街地にあり、平均年齢38.5才、高齢化率15.5%、20~40代が多く、アパートやマンションに入居する世帯が全体の約60%で、防災事業の目的や必要性を訴えるのに苦労している。その意味でも、強いリーダーシップとその実務を担う防災担当の知識と経験が必要ですが、人材育成の課題と仕組みづくりが課題である。

そういった中、防災訓練や住民アンケート結果により、年4回の訓練計画などの年間防災事業計画を策定し、弱点や不備な点・例えば、家庭に消火器の備えが41%、家具等の転倒防止無し28%、ガラスの飛散防止14%等々の理解活動をしている。また、行政や企業との連携を深める活動をしながら、①防災に対する住民意識の向上②アパート・マンションの住民に対して向こう三軒両隣の助け合い運動の理解活動の展開

③県事業を活用した地域防災養成講座の受講による人材育成を推進して安心安全な地域づくりをしている。

その後、パネルディスカッションでは、

- ・発災時には、どの時点で、どのような行動を、誰が決断し、どのように取り組むべきか
- ・自治会に加入しない層に対してコミュニケーションをどうとるのか
- ・災害時に外国人観光客に対してどのように対応すべきか
- ・発災時の連絡方法として、ケーブルTVや防災リーダーにスマートフォン(岡山県里庄町)を支給してLINEを活用している事例紹介
- ・個人として家庭などでどう減災するのか
- ・南海トラフ巨大地震等の地震を見据えて、自助・共助・公助の連携について等々が討論された。

コーディネーターが集約された内容は、

- ① 市民と行政の信頼関係、協力関係をつくること
    - ・一斉訓練、重点地区防災訓練
    - ・地域コミュニティ連絡会、HUK(避難所運営会議)、ジュニアレスキュー、チャリンコ隊・・・
    - ・地域課題を共に考えること
  - ② あるものを使う、一步踏み込む
    - ・土手の花見、使用学校体育館の倉庫、4世代で歩く、中高生による安否確認、ラグビー部、オフロードバイク
    - ・住民協議会(防災に限らない身近なテーマ)
    - ・地域の施設=避難所⇒日頃の活用
    - ・メニューの読み替え(クレーム対応、ホテルの防災訓練)
  - ③ 自助・共助・公助の三分論を溶かす
    - ・人と人が直接接点を持つ場面(クレーム対応、スマホの活用)
- いずれにせよ、連携の手掛かりとしては、身近、日常、あるもの、人と人と結ばれた。

○ 開会式 11:50~12:00

- ・小林 眞 青森県八戸市長次期開催市長挨拶
- ・小早川 光郎 後藤・安田記念理事長の閉会挨拶挨拶

#### ◇まとめ

全国的に台風等により及ぼす豪雨災害や、今後発生する可能性が想定される南海トラフ巨大地震等の地震対策等について、2日間の「防災とコミュニティ」に関する基調講演や各報告内容、また、問題提言や実施体験談など、様々な観点からのQ&A等も今後の本市の防災・減災対策、活動への提言等に活かして参ります。

特に、災害時は、先ず自分並びに家族の安全を、そして近所の方との連携共助の必要性が再認識できました。

常日頃から、避難時の準備品や話し合いによる、どの場所に一時的に避難するか等々ルートも含めて今一度再確認すべきだと感じた会議でした。

これからも、積極的に地域防災訓練や講演・打合せ等にも参画して参り、地域や本市全域の安心安全施策にも繋げて参ります。

以上